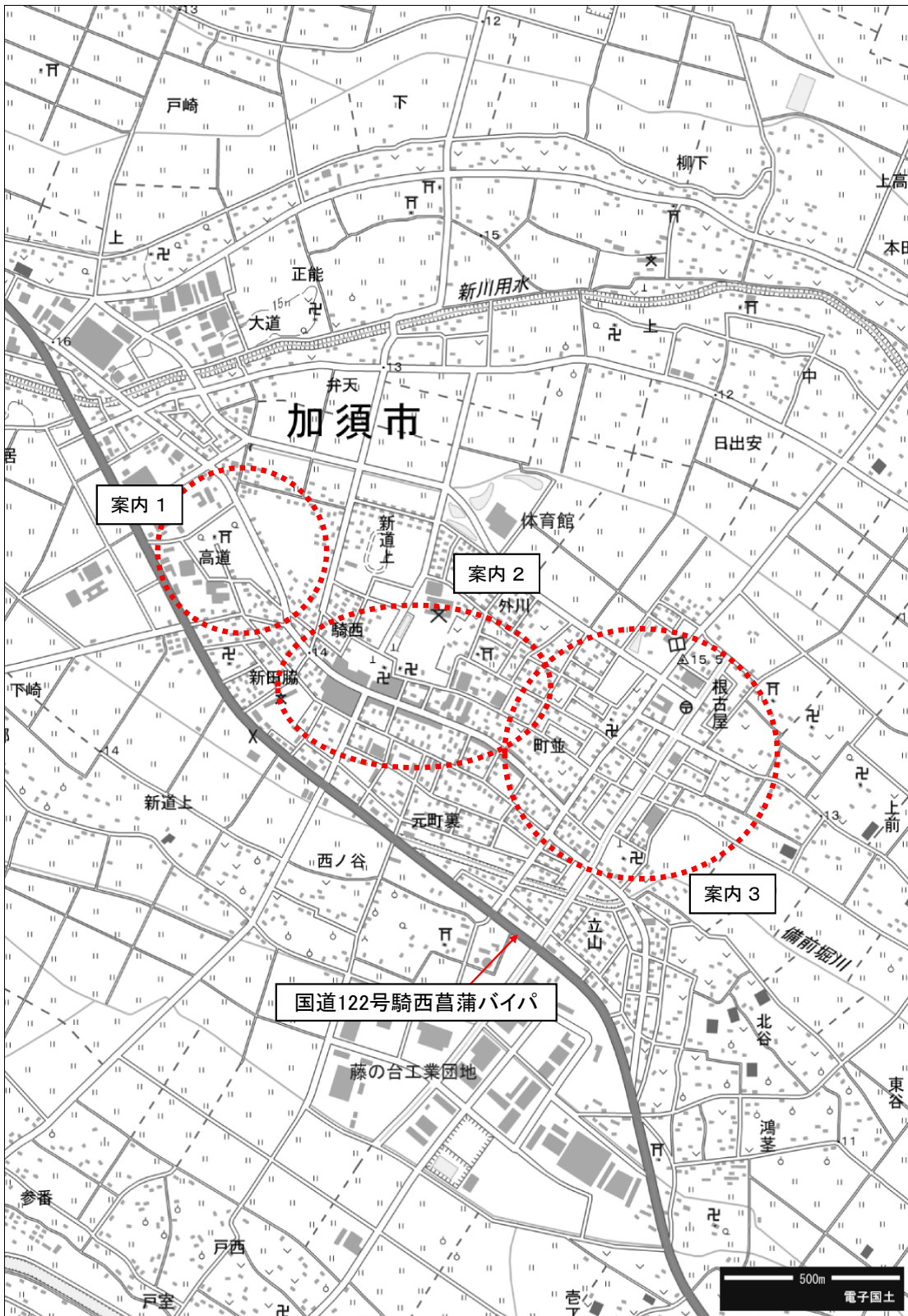


# 騎西



案内図



騎西



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

騎西



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

騎西



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

## 騎西



玉敷神社 神楽殿

旧騎西町は埼玉県北東部、利根川水系の後背湿地地帯にある小さな町である。往還沿いに発達した市場町、戦国期には私市(きさいち)城が築かれ城下町となるが、江戸期には在郷町として再出発する。交通の要衝でもあり、往来の馬継場としても繁栄した。また、特産の武州織物の青縞が成長し、やがてその隆盛は製糸産業へとシフトしていくことになる。現在は全町的に肥沃な農耕地帯が広がり、北埼玉の穀倉地帯といわれている。

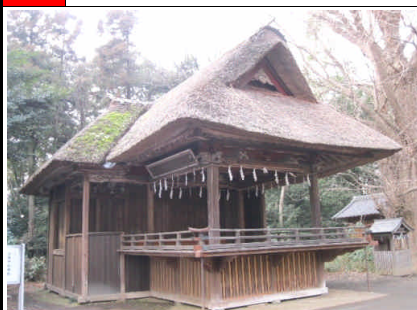
(写真は加須市騎西)

1 -1 玉敷神社 本殿



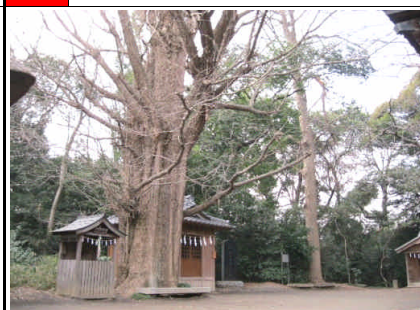
参道の老松に沿って白御影の敷石を一步一步進む。精霊に満ちた杜なのか、身震いするほどの神々しさ。その空気感は恒常を越える。

1 -2 玉敷神社 神楽殿



玉敷神社神楽は、江戸神楽の源流を伝え、様式的な舞を中心とする。神楽殿は天保7(1836)年建立で、茅葺屋根の造り。本堂や、御神木の大銀杏との景観のハーモニーが緻密なまでに美しい。

1 -3 玉敷神社 大銀杏



深閑とした社叢を背景に2本の銀杏が重量感のある姿でそびえ立つ。推定樹齢500年と言われ、樹高は30m程、枝からは乳房状の”気魂”が垂れ下がる。

2 河野省三邸跡



元国学院大学長の文学博士 河野省三氏の旧宅跡。玉敷神社に隣接する。立派な門と塀は、立ち姿として雅で景観を華やかにする。現在、敷地内は公園となっている。

3 店舗



道路側に伸びる店舗の庇は深く、隣に白壁の店蔵もある。

4 店舗



店先に石灰が積まれている。店舗出入口の両開き硝子戸は全て木製で、そのキャラメル色に目を引かれる。

<p>5 武州騎西之絵図</p>	<p>6 酒蔵</p>	<p>7 店舗</p>
		
<p>町の所々に立てられた、城下町騎西を彷彿とさせる絵図。城は沼や深田で囲われ、まさに要塞の地であった様子がうかがえる。</p>	<p>創業寛延元(1748)年に誕生し現在も看板銘柄『力士』は銘酒。敷地内には明治・大正・昭和の時代ごとに建てられた蔵が並ぶ。中でもドラマの撮影に使用された蔵の梁組みは丸太で施され、壁組みにも木材がふんだんに使われており、見ごたえ充分である。</p>	<p>看板建築で道路側に銅板を張る。その銅板は市松模様と、亀甲模様で精巧に装飾されており、真ん中に配された鳥のエムブレムが印象的である。</p>
<p>8 店舗</p>	<p>9 教会</p>	<p>10 -1 騎西城(復元)</p>
		
<p>製麺業は明治時代からで、裏側に麵処の店舗を構える。製麺所のファサードは一階の腰壁と、縦棧が密に打ち付けられている二階の窓部分特徴的である。</p>	<p>旧騎西郵便局であった建物が、現在は教会として使われている。傾斜の強い褐色の瓦屋根には三角の天窓が並んでいる。</p>	<p>稲田に浮き立つように存在する。昭和50年に建てられた。実際の騎西城は平屋であったという。黄緑がかった外壁で復元された城は、愛らしい町のシンボルである。</p>
<p>10 -2 騎西城の土塁</p>	<p>11 -1 大英寺 本堂</p>	<p>11 -2 大英寺 傾き松</p>
		
<p>町の指定史跡 中央公民館入口の県道に面し、小高くなっているのが騎西城の土塁跡。高さ3m、幅約10mのこの規模では銃砲に対する防御は不十分のような気がする。</p>	<p>町並みの東側に位置する大英寺。風格のある赤松が印象的だ。幹が太く、枝ぶりは造形深い。</p>	<p>本堂東側の、支柱も無く30度ほど傾いた松は珍景。話の種になる事うけあい。</p>